

# カナダで国際農業経営学会

シエーション、IFMA)」に参加。経営内容を発表し、高評価を受けた。発表者の東京都市大・サウス・オーストラリア大の木下幸雄教授に参加者からの評価や会場の反応などを報告してもらった。

## 農水大臣賞を受賞し 日本農業者初の参加

熊本・益城町 みっちゃん工房

東京都市大環境学部教授  
サウス・オーストラリア大連携研究教授  
木下幸雄氏が報告



2024年7月7〜12日に、カナダ中部のサスカトゥーンにおいて国際農業経営学会の第24回大会（IFMA24）が開催された。

### 日本農業の「働き方改革」

### 先進的な取り組みを発信

・アグリビジネス経営者とその家族、農業普及員・コンサルタント、研究者など約200人が集まったが、その中には日本の農業者としては初めての女性3人もいた。熊本県益城町でベビーリーフを生産・販売する(株)みっちゃん工房の光永カオリ代表と、その姉



発表ポスターを掲げる光永代表（右）、富田さん（中央）、遠山さん

この大会で、私は光永代表との連名で、「農業経営の成長と女性参画に向けた職場づくり」と題した研究報告を行った。女性を中心に20人余りの労働力を擁する経営で、週休2日制や産休・育児制度など農業界では思い切ったワークライフ・バランス策を試みる一方で、生産規模は3倍、労働生産性も2倍といった見事な成長を遂げていることを、視覚的にわかりやすいポスター形式で発信した。聴衆からは、こうした取り組みへの関心は高く、好意的な評価をいくつもいただいた。アルゼ

## 女性農業者の課題解決へ カナダ女性も改革に共感

報告プログラムのうち、光永代表らは「女性農業者が直面する課題とカナダ農業の方向性」と題した技術報告を興味深く聴いていた。報告者は、カナダ農業経営支援協会（Farm Management Canada）の事務局長を務めるヘザー



と現実とのギャップが浮き彫りとなった。また、約3割の女性農業者労働に対して金銭的支払い（給与、賃金、報酬、配当など）が一切な

カナダ農業経営支援協会のワトソン事務局長（右から2人目）と女性同士の交流

## 逆境に立ち向かう経営革新 切実な世界共通の課題に

ところで、今回の大会テーマは、RESILIENT INNOVATION（レジリエンススリーイノベーション）であった。レジリエンスを直訳すると「回復力」となり意味はわかりにくい

### 一堂に集うグローバル学会

国際農業経営学会は、イギリスに本部を持つ団体だ。2年に一度、世界各地で大会が開かれ、農業経営に関する知識

### 日本からの参加者増を期待

研究者も含めて日本からの参加者はこれまで少なく、今回は初めての農業者の参加ということ

# 人に優しい職場環境づくり、世界で高評価



「みっちゃん工房の今後の発展が楽しみ」と述べた学会のヒュース副会長（前列中央）らと楽しい夕食会

学術論文誌の出版を行いつつ、多くの農業者・実務家が大会に参加して、自らの実践経験を発信するなど、産学連携活動に力を入れているのも特徴である。学会会長のトレバー・アトキンソンさんも、イギリス農家の出身で、国内外で農

今年、日本からの参加者が増えることを期待して、アジア地区に選出された。これも日本人としては初めてのことである。

光永代表は「とても貴重な経験でした。日本の農業をもっと発信すべき」と思っています。英語をちゃんと勉強して、次の大会にも挑戦したい」と参加後の感想を語った。2年後の大会は、南米アルゼンチンである。あなたの農業も世界に発信してみませんか。